

<所蔵映画ポスターの出張展示>

映画ポスターにみるロシア・アヴァンギャルド NFAJ 所蔵《袋一平コレクション》より

会場：国立国際美術館 地下1階パブリックスペース【観覧無料】

2020年1月7日（火）-3月15日（日）

平素よりお世話になっております。このたび、国立映画アーカイブ(NFAJ)は国立国際美術館と共催で、所蔵映画ポスターを出張展示する企画「映画ポスターにみるロシア・アヴァンギャルド NFAJ 所蔵《袋一平コレクション》より」を開催します。

本展は、一昨年度開催の「映画ポスター名品選」(会場:行幸地下ギャラリー)、昨年度開催の「映画ポスター モダン都市風景の誕生」(会場:アーツ千代田 3331)および「フランス映画ポスター名品選 国立映画アーカイブ デジタル・コレクションより」(会場:京都国立博物館)に続く、館外での展示企画の第四弾となります。

国立映画アーカイブによる大阪初の出張展示 ロシア・アヴァンギャルドの映画ポスターの名品をここに

国立映画アーカイブ(NFAJ)は、映画のフィルムを文化財として収集・保存し、積極的な上映活動を行うと共に、ポスター・スチル写真・シナリオ・プレス資料・機材・書籍といった映画資料のコレクションも有し、これらについても、活用の幅を広げ、アクセシビリティを高めるためのデジタル化を進めています。ポスターに関しては現在約59,000点という所蔵数を誇りますが、デジタル化を通じて高精度の複製を作れるようになるなど、新たな資料活用の展開が期待されます。

本展では、デジタル化した収蔵資料の活用の試みとして、ソビエト連邦初期の無声映画時代に作られた映画ポスターを取り上げます。ステンベルク兄弟、ロトチェンコといったロシア構成主義の芸術家を含むデザイナーが手がけたポスター10点を選んで高い精度の複製を制作し、国立国際美術館に展示することになりました。これらはいずれも、ロシア文化の研究者・翻訳家で、一時はソビエト映画の輸入配給に携わっていた袋一平(ふくろ・いっぺい)が所蔵していたものです。この小展示を通して、宣伝性とどまらぬ映画ポスターの美や歴史の一端を感じ取っていただき、映画文化の豊かさを新たに発見していただければ幸いです。



『世界の六分の一』1926年
監督：ジガ・ヴェルトフ ポスター：
アレクサンドル・ロトチェンコ

《袋一平》コレクションについて

ロシア文化の研究者で、児童向け小説や山岳書の翻訳家としても知られる袋一平(1897-1971)は、1928年から約7年間、ソビエト映画の日本への輸入や配給に携わった。1930年、袋は全ソビエト対外文化連絡協会(VOKS)の招きで、講演会を交えた日本映画の巡回上映のためモスクワやレニングラードなどを訪れた。その旅の土産として贈られたポスターやスチル写真がこのコレクションの基礎であり、その後に入手した品も含めると、ポスターは115タイトル・140種にのぼる。当時はソビエト映画の公開に対する検閲が厳しかったため、袋は持ち帰ったポスターやスチル写真の展覧会を開催することにも力を入れた。

なおこのコレクションは、1951年に袋から国立国会図書館が購入し、1974年に東京国立近代美術館フィルムセンター(現・国立映画アーカイブ)に移管されたものである。

□■解説トーク■□

参加無料(混み合った場合はご参加いただけないことがあります)

日時：2020年2月8日(土) ①11:00~ ②15:30~ (各回30分程度) ※①と②の内容は同じです

講師：岡田秀則(国立映画アーカイブ主任研究員) 場所：国立国際美術館 地下1階パブリックスペース

※解説中は展示をご覧いただけない場合があります。

【開催概要】

企画名：映画ポスターにみるロシア・アヴァンギャルド NFAJ 所蔵《袋一平コレクション》より

会場：国立国際美術館 地下1階パブリックスペース(〒530-0005 大阪市北区中之島4-2-55)

会期：2020年1月7日(火)-3月15日(日)

休館日：月曜日(ただし、1月13日(月・祝)、2月24日(月・休)は開館し、翌日休館)

開室時間：午前10時~午後5時(ただし金曜日、土曜日は午後8時まで開館) *入館は閉館の30分前まで

主催：国立映画アーカイブ、国立国際美術館

掲載用のお問い合わせ先：03-5777-8600(ハローダイヤル)

本企画ウェブサイト：<https://www.nfaj.go.jp/exhibition/osaka2019/>